

キャラクター名 プレイヤー名
菟道 卯兎(とうとうと)

シンドローム	サラマンダー	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	鶴衆 左腕
	オルクス				
オブショナル	ハヌマーン	年齢	28	性別	女
覚醒	死	衝動	嫌悪	初期侵食率	62 %
出自	反逆者の子	経験	神童	邂逅	家族（茑道 兎角）

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	2	1	0		4	7	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	3	0	0			3	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	13	12	射撃			R C	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
揺らぐ篝火		9		33		侵蝕12<エターナルブレイズLv3><苛烈なる熱気Lv5>
日華		-2	6	24		侵蝕6<氷炎の剣Lv2><地獄の氷炎Lv4>
捨身月兎	白兵	13r+23	6	57		侵蝕10<一閃Lv1><コンセLv3><紅蓮の灰1Lv1><炎神の怒りLv2><電光石火Lv2>
燎原の火	白兵	13r+23	6	57		侵蝕8<コンセLv3><炎神の怒りLv3><電光石火Lv2>

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品					
コネ：『異端者（蜂須賀）』					
コネ：『蜂須賀 叶朔+』					

合計装申：						
0						
合計回避：						
0						
ロイス						
対象	感情(pos)	感情(neg)	タ イ ス	消 費		
『氷炎獄之印』	P	N				
『鵄焰』	P	N				
鵄	P 信頼	N 食傷				
菟道 禰角	P 慈愛	N 嫉妬				
	P	N				
	P	N				
	P	N				
最大財産P： 8 残り財産P：						

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
武芸の達人	4	—	常時	至近	自身	自動	—	
効果:	<白兵>技能の達成値+[Lv×3]							
援護の風：楽園	4	2	オート	視界	単体	自動	—	
効果:	判定直前/判定ゲイス+Lv個							
ウィンドブレス	2	2	オート	視界	単体	自動	リミット	
効果:	<援護の風>使用時達成値+[Lv×3]							
妖解放	1	1D10	セットアップ°	至近	自身	自動	D	
効果:	Xジャー判定のC値-1(下限5)/暴走状態へ							
原初の虹：命の鎧	3	4	セットアップ°	至近	自身	自動	コネ	
効果:	シーン間、装甲値+【肉体】/【肉体】の達成値+[Lv×3]							
エターナルブレイズ	3	4	セットアップ°	至近	自身	自動	D	
効果:	サマング-のEF組合せ/攻撃力+[Lv×6]							
苛烈なる熱気	5	3	オート	至近	自身	自動	D	
効果:	回避成功時、攻撃力+20/Lv回まで重複							
氷炎の剣：冥府	2	3	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果:	攻撃力:+[Lv×2+8]命中達成値-2/ガ-ト°値6							
地獄の氷炎	4	3	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果:	氷炎の剣に攻撃力+[Lv×3]							
コンセントレイト:サマング-	3	2	Xジャー	—	自身	自動	—	
効果:	クリティカル値をLv分マイナス							
一閃	1	2	Xジャー	武器	—	対決	—	
効果:	全力移動後、白兵攻撃を行う/離脱不可							
炎神の怒り：楽園	2	3	Xジャー/リアクション	—	—	—	—	
効果:	<肉体>判定ゲイス+[Lv+1]個							
電光石火	2	3	Xジャー/リアクション	—	—	—	—	
効果:	<肉体>判定ゲイス+[Lv+1]個							

代々検非違使として仕えていた莟道家の長女として産まれる。
オーヴァードとしての力は無かったが、幼少期から武芸を磨き達人の域に達した。

卯兔が13歳の頃に朝廷の反逆が起きる。兎角はまだ4歳だった。
 卯兔にも反逆の理由は明かされず、刀を握らさる朝廷へ矛を向けさせられた。
 己が狩野の為に戦って死ぬのは武士の誉。だが語りを持って死ぬにはあまりにも粗末な戦いだった。
 鎮圧された首を落とされる際に頭をよぎったのは、まだ幼い妹がこれからどうなるかだった。
 本来であれば兎角も含めた一族郎党の死は必然。
 望みは薄いと分かっていたがとも、妹の助命嘆願だけを残し首を落とされ死んだ。はずだった。
 死を弾みきりオーヴァードとして覚醒した彼女は一族の死体転がる処刑場で目撃した。
 朝敵として処罰された身としては京に戻ることもできなかった。

なんやかんやあって鶴に拾われて半妖として鶴衆で育った感じ…になればいいな、と。
 放浪してるときまだ13歳の子供だから拾ってくれないかな～。
 莖道と名乗ることはもう二度とないし、卯兎の名前も捨てて別の名を名乗っていると思う。

プレイヤー名 _____

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

[illegible][illegible][illegible]